

令和2年9月26日土曜日早朝、酒田市光ヶ丘市民プール前に約240名のボランティアが集結しました。この活動は、先人が残した松林を市民の手で守るという意識を高めるため、平成12年度より酒田市が光が丘地区にて、春期、秋期の年2回開催しています。今年度は、コロナ禍で秋期のみで開催となりました。

当日は、朝日庄内森林生態系保全センター職員1名と当署職員6名のほか、万里の松原に親しむ会、近隣住民、地元の酒田第一中学校生、酒田光陵高等学校生など多数参加され、活気あふれる活動となりました。

早朝の開会式を終えた参加者達は、酒田市光ヶ丘公園（酒田市有林）と万里の松原（国有林）に別れて活動するため、それぞれの活動場所へ向かいました。

万里の松原へ到着後、庄内総合支庁森林整備課職員より作業内容の説明を聞いた参加者達は、道具を受け取り、更に班ごとに別れて作業を行いました。

当署職員が所属する班には、複数名の高校生のほか未就学児を含む親子の参加があり、側溝に被った土砂の撤去に取り組む学生達、初めて使う鎌に戸惑いながら一生懸命刈り払いに汗を流す学生や未就学児など、限られた時間の中で、様々な世代が一丸となり黙々と作業を進めました。

早朝から午前中の短い活動時間でしたが、使い慣れない下刈鎌を振るなどの作業に、余分な力が入っていたようで、あっという間に体の節々に異変を感じ始め、運動不足を強く感じたところです。わずか数時間のうちに清々しい松林に生まれ変わり、参加者達は、晴れやかな表情で現地を後にしました。

